

平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

かかりつけ薬剤師の専門性の検討とそのアウトカムの調査

総括研究報告書

長期処方分割調剤とかかりつけ薬局機能に関する調査

研究代表者 今井博久 東京大学大学院医学研究科

研究要旨

長期処方の分割調剤の実施による患者行動の変化(面分業の広がり)、患者の服薬状況(残薬調査)、「かかりつけ薬剤師(特定の薬剤師)」のかかわりとそのアウトカムについて検討した。また、平成30年度診療報酬改定で分割処方箋発行の明確化に伴う「分割処方のオーダーシステム」の構築とその導入後の分割調剤の普及促進への対策について検討した。分割調剤を実施した高血圧や脂質異常症などプライマリケア・レベルの患者、また乳がん、膵がん患者を対象に解析した結果、かかりつけ薬剤師・薬局と医療施設間との患者情報の共有化が推進され、プライマリケア・レベルの患者の服薬状況の改善が図られた。また、がん患者は、薬物療法への不安の解消、副作用の回避など薬剤師の専門知識による役割を果たしていることが明らかになった。特に、処方内容の解析による処方医への情報提供(処方提案)など薬剤師の本質的な役割が果たされていた。

さらに、分割調剤の処方せん発行を行う体制を整備し、関節リウマチ患者を対象として分割調剤を開始した。これまでに、10例において分割調剤を実施し、服薬管理や副作用発現のモニタリングに有用であることがわかった。しかし、分割調剤が継続しないなど課題も浮き彫りとなった。また、分割調剤について認知不足により、病院薬剤師等の負担増加も課題である。他方、KURAMA コホートの解析から服薬アドヒアランスがリウマチの病態再燃に重要な因子となることが判明し、分割調剤が効果を発揮できる可能性が示唆された。

他方、患者が薬局に安心して相談できるための環境の構築に向け、患者が服用する薬剤の個別の内容以外で、これまで相談を受けた内容を薬剤師に調査した結果、検査値、アドヒアランス、健康に関する内容の相談が多いことが判明した。それらの内容について患者向けチラシを作成し、チラシを使用した場合と使用しない場合で相談数に影響があるか調査を実施したところ、チラシの使用により有意に相談数が増え、患者も相談しやすい状況がわかった。また、健康食品の情報についてはどのように収集を行うべきかの手順等について、及び海外での薬剤師職能(カナダのケース)について情報収集等を実施した。

A. 研究目的

本研究班の目的は、地域包括ケアシステムにおける「かかりつけ薬剤師」の専門的な機能や役割を検討し、専門性や有用性などについて理論および実証分析を行うことである。本年度では、主に長期処方分割調剤に焦点を当ててかかりつけ薬剤師の機能を検討し、また多剤処方の改善介入の方法論の開発のためにパイロット（予備的）研究を実施した。さらに患者が薬局に安心して相談できるための環境の構築に向けて薬剤師へのアンケート調査も実施した。

B. 研究方法

がん化学療法を行い服薬指導した患者を対象にアンケート調査を行い、長期投薬の分割調剤の導入について患者の意識調査を実施し分割調剤の普及促進対策について検討した。また、乳癌術後ホルモン治療薬投与患者を対象として分割調剤を実施し、3症例について症例検討を行った。さらに、かかりつけ薬剤師の機能として、高齢患者の不適切な多剤処方に対して改善介入があり、本年度はその具体的な方法（保険者のデータ取扱い・医師との連携手順・行政との手続き方法など）をひと通り実施した。更に、患者が薬局に安心して相談できるための環境の構築に向けて薬剤師へのアンケート調査も実施した。

C. 結果

長期投薬の分割調剤の導入について患者の意識調査を実施した結果、分割調剤を希望する患者は希望しない患者と比較して、抗がん剤を服用している、病院・診療所から提供された検査結果の報告書を保険薬局に提出している、服用期間が30日以上のお薬が処方されている、「かかりつけ薬

局」に関心がある、これらの各項目で高い割合を示した。分割調剤を希望する患者は、薬剤師に検査値報に基づきお薬の副作用を回避するなど薬学的な管理を薬剤師に期待していることが示唆された。

乳がん患者の3症例を検討した。重要な症例として、閉経前右乳がんに対して、術後ホルモン療法が開始となった患者症例を示す。遠方に在住しており頻繁な通院は困難であったが、京大病院での治療を希望したため、患者のかかりつけ薬局と連携した薬物治療管理を実施した。患者が遠方の自宅に帰る前に、かかりつけ薬局に連絡して分割調剤の流れを確認した。この薬局に来局の際に患者の副作用モニタリングを実施して頂き、トレーシングレポートにて報告を受け、カルテに貼付した。180日処方に対して60日ごとの分割調剤を実施した。このような、遠隔地に居住し頻繁な来院が難しい患者、服薬管理や副作用発現に不安を持つ患者に有用であることが明らかになった。

また、患者が薬局に安心して相談できるための環境の構築に向け、患者が服用する薬剤の個別の内容以外で、これまで相談を受けた内容を薬剤師に調査した結果、検査値、アドヒアランス、健康に関係する内容の相談が多いことが判明した。それらの内容について患者向けチラシを作成し、チラシを使用した場合と使用しない場合で相談数に影響があるか調査を実施したところ、チラシの使用により有意に相談数が増え、患者も相談しやすい状況がわかった。

D. 考察

医薬分業が始まり40年ほどの時間が過ぎたが、その間に薬剤師に要請される役割は変化してきた。とりわけ、近年では「対

物業務」から「対人業務」へのシフトが求められ、「かかりつけ薬剤師」として臨床的な専門性ある機能発揮が期待されている。長期処方分割調剤や多剤処方の改善介入は地域包括ケアシステムの中で薬剤師が担う役割のひとつになるだろう。研究班の初年度である本年度に実施したアンケート調査や、小規模ながら症例検討およびパイロット研究は今後につながる調査研究になった。

E. 結論

研究班の平成30年度の成果として、「地域包括システム」においてかかりつけ薬剤師が積極的に患者の薬物治療に関与することが患者の安全安心の治療につながり、またそれを実現するためには現状の地域医療システム(医師と薬剤師の連携、患者教育、薬局薬剤師の意識など)を変えて行かなければならないことが示唆された。長期処方分割調剤の導入による、患者アウトカムへの影響、患者の動向、残薬調査など患者の服薬状況、薬局の労力や業務内容などについて今後の調査の方向性が明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Nakagawa S, Nakaishi M, Hashimoto M, Ito H, Yamamoto W, Nakashima R, Tanaka M, Fujii T, Omura T, Imai S, Nakagawa T, Yonezawa A, Imai H, Mimori T, Matsubara K. Effect of Medication Adherence on Disease Activity among Japanese Patients with

Rheumatoid Arthritis. PLOS ONE

13(11): e0206943, 2018

2. Watanabe T, Yagata H, Saito M, Okada H, Yajima T, Tamai N, Yoshida Y, Takayama T, Imai H, Nozawa K, Sangai T, Yoshimura A, Hasegawa Y, Yamaguchi T, Shimozuma K, Ohashi Y. A multicenter survey of temporal changes in chemotherapy-induced hair loss in breast cancer patients.

PLOS ONE 14(1): e0208118, 2019.

3. 深津祥央, 池見泰明, 米澤淳, 尾崎淳子, 浅野理子, 櫻井香織, 上杉美和, 吉田優子, 傳田将也, 大谷祐基, 大村友博, 今井哲司, 中川俊作, 中川貴之, 今井博久, 松原和夫. 医師からの指示として「残薬調整」をプレ印字した処方せんの医療経済効果. 日本病院薬剤師会雑誌. 54(3): 30307-312, 2018.
4. 佐藤秀昭, 富岡佳久, 中村哲也, 小田慎, 大木稔也, 今井博久; 患者による薬局への検査結果報告書提出に影響を及ぼす要因. 医療薬学 45(3):164-170, 2019

2. 学会発表

1. 今井博久, 中尾裕之, 熊澤良祐; 高齢患者における多剤処方の薬剤疫学研究. 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月 郡山
2. 中尾裕之, 今井博久, 熊澤良祐; 国民の一般用医薬品購入に関する薬剤疫学研究. 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月 郡山
3. 熊澤良祐, 中尾裕之, 今井博久; 在宅がん患者における薬剤疫学研究. 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月 郡山
4. 清水紗弥香, 佐藤秀昭, 富岡佳久, 中村

- 哲也, 小田慎, 大木稔也, 今井博久 ; 患者による薬局への検査結果報告書提出に影響を及ぼす要因. 第 28 回日本医療薬学会年会. 2018 年 11 月 神戸
5. 鈴木洋子, 小田慎, 大木稔也, 神隆浩, 阿蘇拓樹, 今井博久, 佐藤秀昭 ; がん化学療法を受けている患者の長期処方の方割調剤に関する意識調査. 第 28 回日本医療薬学会年会. 2018 年 11 月 神戸
 6. 阿蘇拓樹, 神隆浩, 小田慎, 佐藤秀昭 ; 長期処方の方割調剤を実施したがん患者への薬剤師の専門的な支援の検討. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018. 2019 年 3 月 北海道
 7. 山嶋仁実, 池見泰明, 米澤淳, 猪熊容子, 朝倉佳代子, 傳田将也, 今井哲司, 竹内 恵, 高田正泰, 松本純明, 戸井雅和, 今井博久, 松原和夫. かかりつけ薬剤師と連携した乳癌術後ホルモン治療における薬学的管理～長期処方における方割調剤の活用～、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019 2019 年 3 月 23 日 札幌
 8. 長谷川嵩, 井上智子, 益山 光一 ; 薬局における健康食品に関する相談対応のための方策について. 第 51 回日本薬剤師会学術大会 2018 年 9 月 23 日・24 日 石川県
 9. 若子直也 ; カナダにおける薬剤師業務の変遷と現在の取組みについて (分科会 15 これからの医薬分業を考える). 第 51 回日本薬剤師会学術大会 2018 年 9 月 23 日・24 日 石川県

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 : なし
2. 実用新案登録 : なし
3. その他 : なし